

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2008年9月)

発表日2008年11月19日(水)

～悪化傾向が鮮明に～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 岩田 陽之助

TEL : 03-5221-4525

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	7-9月	▲0.1	1.0	0.1	1.5	1.6	2.9	0.1	▲0.7	▲5.9	▲6.8		
	10-12月	▲0.1	0.7	▲0.1	0.9	1.8	4.2	▲0.1	▲0.6	▲4.8	▲11.0		
08	1-3月	▲0.9	0.4	▲1.1	0.6	▲2.2	2.3	▲0.7	0.0	0.0	▲9.6		
	4-6月	0.5	▲0.5	0.9	▲0.2	▲0.1	0.9	0.2	▲0.4	▲1.7	▲11.9		
	7-9月	▲0.8	▲1.2	▲0.6	▲0.8	▲1.4	▲1.3	▲0.7	▲1.2	▲1.7	▲7.8		
07	7月	▲0.3	1.7	▲0.3	1.7	▲0.1	4.2	0.0	▲0.5	▲1.9	▲3.2		
	8月	0.6	1.7	0.6	2.1	1.7	4.4	▲0.1	▲0.8	▲3.8	▲6.9		
	9月	▲0.9	▲0.3	▲0.7	0.5	▲1.3	0.4	0.3	▲0.9	▲3.8	▲10.2		
	10月	0.6	1.3	0.3	1.3	2.6	5.9	▲0.3	▲0.7	▲1.8	▲11.5		
	11月	▲0.2	1.2	0.1	1.7	▲1.2	4.1	0.0	▲0.4	1.3	▲10.8		
	12月	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.1	1.0	2.7	0.0	▲0.6	0.1	▲10.7		
08	1月	0.0	0.6	0.4	1.0	▲1.9	2.9	▲0.4	▲0.7	0.4	▲10.1		
	2月	▲1.3	1.8	▲1.6	1.7	▲0.3	5.1	▲1.3	1.4	▲2.6	▲9.6		
	3月	0.3	▲1.0	0.0	▲0.5	▲1.4	▲0.7	1.7	▲0.6	2.5	▲9.2		
	4月	0.8	0.3	1.9	0.7	▲0.4	1.8	▲0.3	▲0.3	▲1.0	▲10.6		
	5月	0.4	▲0.5	▲0.2	▲0.2	2.6	1.2	▲0.1	▲0.3	▲1.8	▲12.2		
	6月	▲1.0	▲1.3	▲1.0	▲1.0	▲1.3	0.0	▲0.3	▲0.7	▲1.1	▲12.9		
	7月	0.8	0.3	1.2	0.7	1.1	2.4	▲0.4	▲1.0	▲1.7	▲12.6		
	8月	▲1.7	▲3.3	▲1.3	▲2.2	▲4.1	▲6.9	▲0.1	▲1.4	2.0	▲7.8		
	9月	▲0.1	▲0.7	▲0.6	▲0.8	1.3	0.2	▲0.1	▲1.1	0.1	▲3.3		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 2ヶ月連続のマイナス

9月の全産業活動指数は前月比▲0.1%と事前のコンセンサス(同▲0.1%、レンジ: ▲1.0%~+0.6%)通りの結果となった。単月で見るとほぼ横ばいとなったものの、7-9月期は前期比▲0.8%となり、このところの全産業活動指数の悪化傾向が鮮明になった。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は、鉱工業生産指数(前月比寄与度: +0.27%ポイント)、建設業活動指数(同: +0.01%ポイント)であった。一方、マイナスに寄与した指数は第3次産業活動指数(同: ▲0.41%ポイント)、公務等活動指数(同: ▲0.01%ポイント)であった。

個別に見ると、第3次産業活動指数は、前月比▲0.6%となった。世界経済の悪化から輸出が減少し、卸売業が低調に推移した。鉱工業生産指数は、前月比+1.3%と上昇したが、7-9月期でみれば、前期比▲1.4%と3四半期連続でマイナスとなり足元の生産は減少傾向が続いている。建設業活動指数は前月比+0.1%、公務等活動指数は前月比▲0.1%となった。

○ 7-9月期は▲0.8%

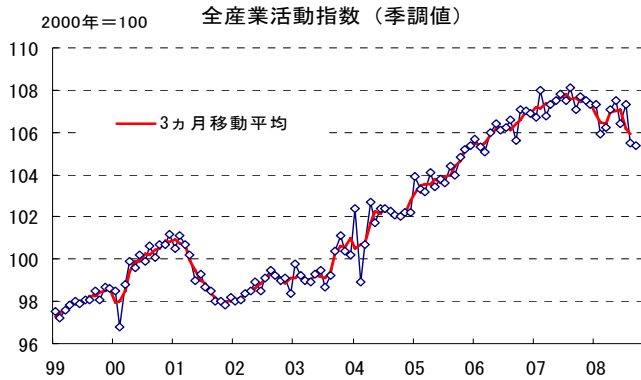
全産業活動指数は「供給側からみたGDP」といわれるが、7-9月期の前期比▲0.8%はGDP1次速報の同▲0.1%と比較すると低めの結果であった。内容を見ると、GDPでマイナスに寄与した項目が民間企業設備と外需であったことは、全産業活動指数の鉱工業生産が低調に推移したこと、第3次産業活動指数が企業部門を中心として落ち込んだことと概ね整合的と言える。

○ 先行きも悪化が予想される

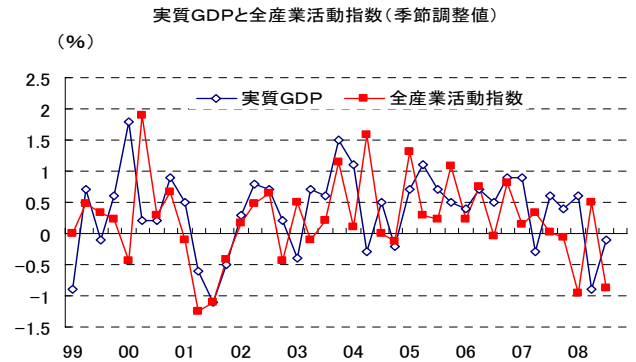
前述の通り企業関連を中心に落ち込んでいる全産業活動指数であるが、先行きも同様の展開が続きそうだ。まず、鉱工業生産指数に関しては、世界経済の悪化による輸出の減少やこれに伴う在庫調整などを背景に、不振が続くと予想される。

第3次産業活動指数についても、世界経済の悪化による輸出の減少から卸売業などが低調に推移するものと思われる。また、企業収益悪化によるコスト削減から対事業所サービス等の活動が抑制される可能性が高い。

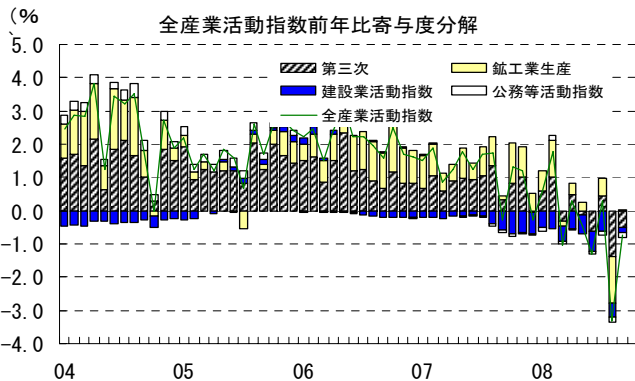
このように企業関連で悪化傾向が予想されると共に、建設業活動指数や第3次産業活動指数の家計部門が牽引役となることも期待しがたく、全産業活動指数が悪化傾向を辿る可能性は高いと言えるだろう。



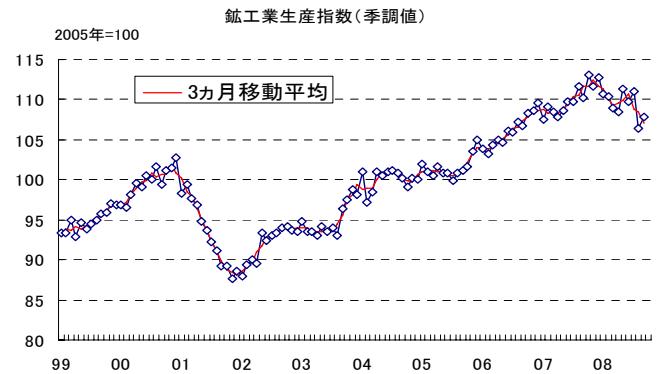
(出所) 経済産業省「全産業活動指数」



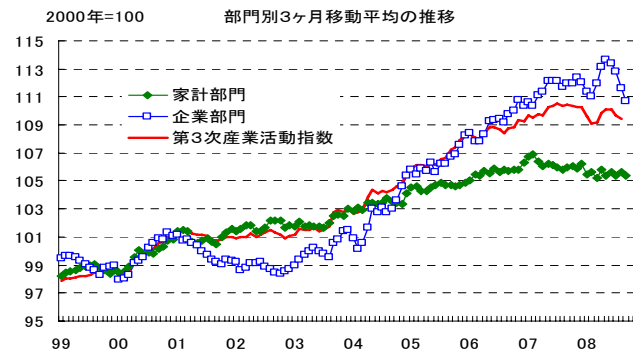
(出所) 経済産業省「全産業活動指数」、内閣府「国民経済計算」



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

家計部門・・・映像・音声・文字情報制作、旅客運送業、小売業、不動産取引業、住宅賃貸業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、学習支援業、対個人サービス業
 企業部門・・・情報サービス業、貨物運送業、卸売業、貸事務所業、対事業所サービス業